既設の暗きょ排水を有効利用するため補助暗きょをおすすめしています

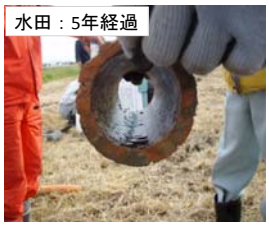
別添　参考資料２

既設の暗きょはどうなってる？

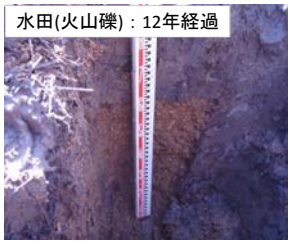
平成22年度～平成25年度にかけて、北海道は全道各地の疎水材暗きょを施工した水田と畑（転作畑、牧草畑含む）７２ほ場において暗きょ管上面まで掘削し、疎水材の状況やその周辺土壌の硬さ、透水性などを調査しました。

調査結果のポイント

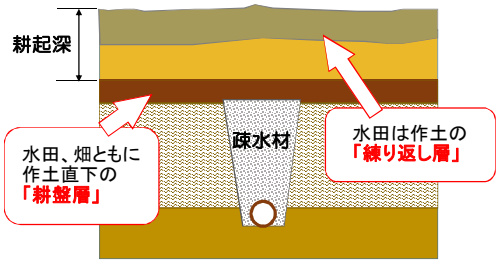
① 暗きょ管の詰まりや疎水材の目詰まりはほとんど見られなかった。

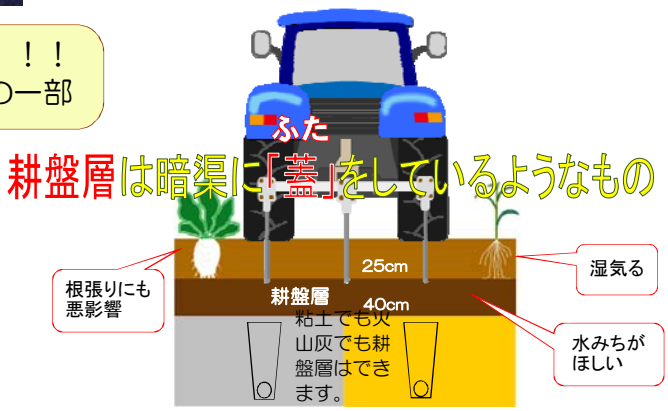


② 砂利、火山礫、貝殻などの疎水材は１０年以上経過しても施工時の断面を維持していた。



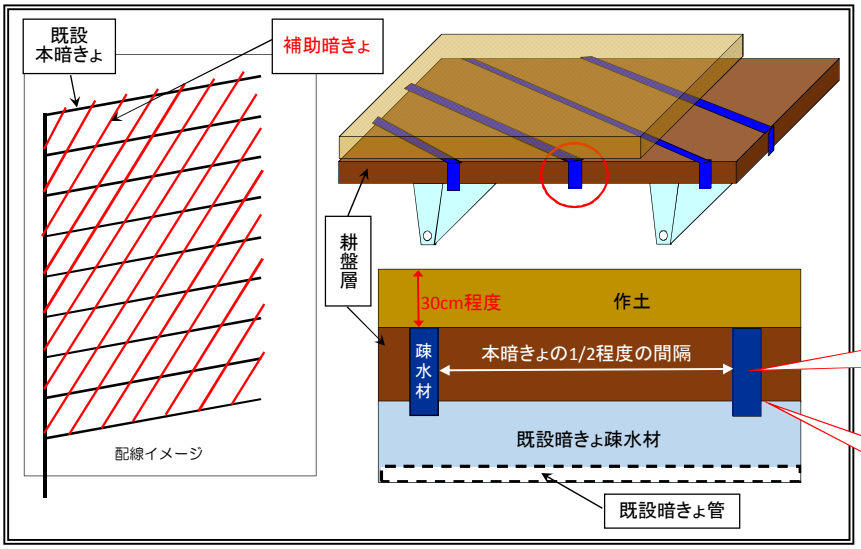
③ 排水不良の要因の大半は、「耕盤層」！！
水田の場合は「練り返し層」も要因の一部





暗きょが効かないから「また暗きょ」はもったいない！
既設の暗渠が疎水材型なら安くて排水効果を上げられる補助暗きょを！！

◎ 既設暗きょの補助暗きょを提案します。



補助暗きょの配線間隔は、本暗きょの1／2程度を基本とします。

本暗きょの施工費に比べると2／3～1／2程度の費用で施工できます。
（工法や疎水材の種類等により変動します。）

この部分の整備により既存暗きょの機能を回復できます。

耕盤層を突き抜け、作土と既設疎水材をつなげます。